



# 新<sup>しん</sup> 緑<sup>みどり</sup> ニュース



病院の理念

確かな医療技術  
やさしい対応  
地域への貢献

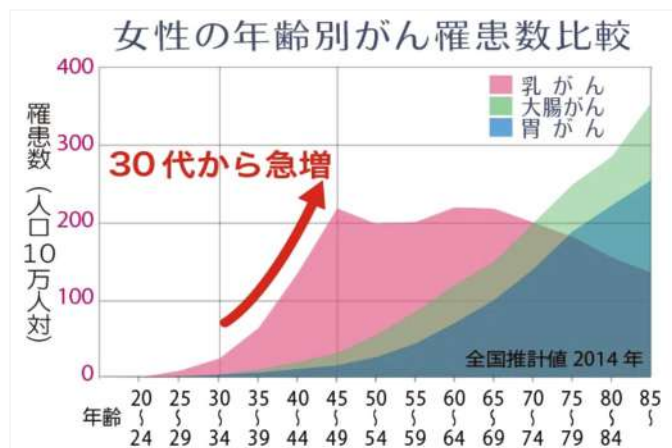
さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん  
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院  
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7  
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271  
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



## 乳がん検診のススメ～毎年10月はピンクリボン月間です～

副院長・乳腺外科部長 大地 哲也

女性が最も多くかかるがんが乳がんで、生涯で9人に1人が乳がんになる時代です。多くのがんは中高年の病気ですが、乳がんは働きざかり・子育て世代の比較的若い世代もかかるがんです。乳がん罹患率は30代後半から急増し、30～64歳の世代では乳がんは女性のがんによる死亡数で1位です。



都道府県別の人口10万人当たり死亡率は最も低い高知県の8.35から秋田県の15.11までの幅があり、神奈川県は10.42でその中間に位置し、改善の余地があります。

### ブレストアウェアネスについて

「ブレストアウェアネス」とは、乳房の状態を意識する生活習慣のことで、乳がんの早期発見や診断、治療につながる重要なこととされています。ブレストアウェアネスには以下の4つのポイントがあります。①ご自分の乳房の状態を知る。②乳房の変化に気をつける。③変化に気づいたらすぐ医師へ相談する。④40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける。ここで重要なのは、症状がなくても定期的な乳がん検診は必要であることと、症状や変化に気づいたら次の検診を受けるのではなく直ちに乳腺外科を受診することです。

乳がんは早期に発見すれば治るがん（I期であれば10年相対生存率は99%以上）ですが、乳がん検診の受診率は低調です。2019年は47%、コロナで受診控えとなった2020年は29%まで低下という推計があります。乳がん検診の目的は、乳がんを早期に見つけて早期に治療を行

い、乳がんによる死亡者を減らすことです。自治体検診では40歳からのマンモグラフィが行われています。

検診についてのQ&Aです。

### Q高濃度乳房（デンスブレスト）とはなんですか？

乳房は主に乳腺と脂肪で構成されますが、この乳腺の割合が高い状態のことで病気ではありません。若い方は高濃度乳房の傾向が強いです。高濃度乳房の方はマンモグラフィ検診で乳がんを発見しにくい傾向があるため、検診結果とともに通知される事があります。

### Qマンモグラフィと乳腺超音波（エコー）はどちらがよいのでしょうか？

マンモグラフィは検診有効性が証明されていますが、若年者に多い高濃度乳房では感度が2/3程度に低下します。乳腺超音波は高濃度乳房の影響を受けにくく、マンモグラフィを補完できる可能性があり、超音波併用マンモグラフィ検診が有効な可能性があります。乳腺超音波検査単独での有効性は不明で、マンモグラフィと同時に行うのが良いでしょう。

### Q検診年齢の40歳未満なのですが乳がんの心配は不要でしょうか？

ブレストアウェアネスを実践し乳房の変化に気を配り、異常を感じたら乳腺外来を受診してください。血縁者に乳がんや卵巣がんやすい臓がんを患った方がいる場合、乳がん発症のリスクが高い可能性がありますので乳腺外来でご相談ください。

### Qマンモグラフィは痛いと聞いて受けたくないのですが

マンモグラフィは撮影時に乳房を圧迫します。なるべく痛くないように工夫するのですが痛みが気になる方もいます。マンモグラフィが苦手という理由で定期検診から離れている方は、無痛MRI乳がん検診（ドゥイブスサーチ）も行っていますので検診センターにお問い合わせ下さい（Web予約も可能です）。

当院乳腺外来では、受診当日に画像の結果説明や生検が可能です。当院の乳がん治療に関する情報や無痛MRI検診に関してはホームページをご参照ください。



## 無痛MRI乳がん検診の体験レポートが配信されました



緑区の情報番組レオラジオにて無痛MRI乳がん検診（ドゥイブス・サーチ）の体験レポートが配信されました。10月は乳がんの早期発見・早期治療などを目的としたピンクリボン月間です。少しでも乳がん検診を検討されている方々への後押しになれば幸いです。

無痛MRI乳がん検診（ドゥイブス・サーチ）のWEB予約を開始しました。



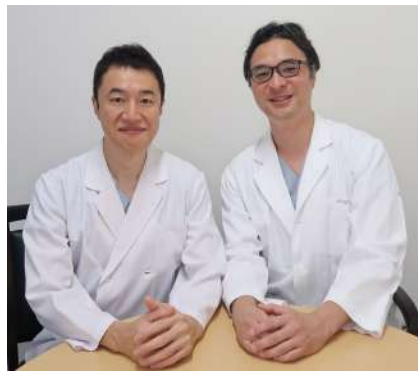
## そけいヘルニアセンター開設のご案内

この度、鼠経（そけい）ヘルニアの診断から治療に特化した「そけいヘルニアセンター」を開設し、併せて日帰り手術もご相談いただけるようになりました。

当院は指導医レベル（エキスパート）の専門医が2名在籍しております。

複数の技術認定医が在籍、尚且つ日帰り手術が可能な医療機関は神奈川県内でも2カ所のみです。（2023年6月現在）

大学病院並みの手術実績と確かな技術を有する当院の専門医へお気軽にご相談ください。



▲消化器外科 部長 平山亮一（左）、消化器外科 副部長 佐々木一憲



## 部門紹介 2023 | システム管理室

システム管理室 係長 荒川 友博

異なる業界でも社内SE（システムエンジニア）が勤務している情報システム関連部署がありますが、病院にも同様に病院版社内SEがいて、担当しているのがシステム管理室です。

以前は医師が検査の指示・オーダーを出す際には紙伝票で、診療の記録は紙カルテで記載、X線画像もレントゲンフィルムで見っていました。

2000年代から多くの病院が電子化に取り組み、現在では大病院では91%、同規模の病院で75%程度で電子カルテシステムが導入されていると言われています。当院でも2006年紙伝票を廃止し、システムで指示・オーダーをするようになり、2009年にはX線画像もシステム上に保存しモニターで参照、2013年に電子カルテシステム上に診療記録を記載するようになりました。

当院では異業界で情報システム管理をしていた経験やシステム会社でプログラミングやシステム導入の経験のあるスタッフ2名が勤務しており、パソコン約520台、タブレット・スマートフォンといったスマートデバイスを110台管理しています。

今年8月には電子カルテのサーバーや院内各所配置されている診療業務用のコンピュータ410台を新しく入替えを行う作業を週末1日半で実施しました。

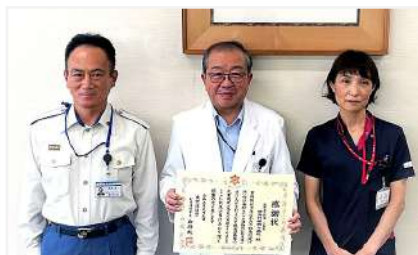
病院では、受付から診察・各科検査・会計まで各種システムを活用して診療が行われており、日々トラブルのないようシステムの導入・保守を行ってまいります。



## 町田消防署より感謝状を授与されました

当院では多年にわたり隣接している町田市より積極的に救急車の受け入れを行い、救急業務へ貢献したことが評価され、東京消防庁町田消防署より感謝状を授与されました。今後とも地域の2次救急拠点病院として救急業務に邁進してまいります。

▶左より町田消防署 渡邊指令長、松前院長、野田副看護部長



WEB版みんなの健康講座 11月配信予定

※オンライン配信

日用品による接触皮膚炎（かぶれ）

皮膚科 副部長 松岡 百合子

